

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームはなぞの
(ユニット名)	1Fユニット
所在地 (県・市町村名)	北海道紋別市花園町3丁目7番20号
記入者名 (管理者)	管理者 阿部 直美
記入日	平成 20年 12月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりが共同生活のなかでも主役で居心地がよく、花や野菜を植えたり通常の家庭生活をおくる事のできるサービスの提供を基本理念として掲げています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と全職員がこのホームの理念に沿った実践に当たるために、ホーム内に掲示し日常的に意識するよう取り組んでいます。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	このホームの運営理念をパンフレットや入居時の説明だけで形骸化することのないよう、毎月発行する「はなぞの通信」に掲載し、ご家族に配布している他、町内会にも回覧し、地域の方々にも知っていただくよう取り組んでいます。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会主催の住民交流行事の開催をホーム前で行っていただいて入居者との交流を行ったり、ホーム主催で地域住民との交流行事を実施したりして、住民の方たちとも馴染みになれるよう、またいつでも気軽に立ち寄っていただけるよう取り組んでいます。またホームと同一経営のマンションに入居されている方や近所の子供さんも立ち寄っていただき入居者	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一斉清掃などの町内会活動および総会や会議に積極的に参加し、現在はホーム居住区の町内会班長を引き受け住民との対話を図っているほか、職員、利用者が一緒になって地域で開かれる「盆踊り大会」「町内会主催の親睦交流会」などに参加して交流を深めることに努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市内の介護福祉事業者等が協力して「認知症サポーター養成講座」を開いて広く市民にサポーター活動を推進したり研修会の開催などに取り組んでいます。また保健所が推進する「高齢者介護・認知症介護の相談機関」として市民からの相談に対応できる事業所として窓口を開いています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で点検し、外部評価の結果と合わせて、要改善事項は全員で話し合い認識した上で共有し、その改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、評価結果と取り組み状況の話し合いに市内他事業者にも参加していただき、優良事例や先進事例の意見を参考にサービス向上に努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや保健所、市保健福祉部が主催する会議には出来るだけ担当職員を出席させ、制度の熟知や指導を仰ぎ、疑義が生じたときなどは自己判断せず指導を受けるなど、適正な運営とサービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施していない。	○	現在は必要性に迫られていないことから制度の理解がされていないが、相談を受けた時やかかる状況となった時に、活用に結びつくようにアドバイスが出来るよう研修や学ぶ機会をもちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の意思を気長く尊重することを基本に、管理者、職員相互で注意を払い防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	重要事項説明書による説明のほか、疑問や質問には納得いただくまで十分な説明をしています。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の要望は管理者、職員に速やかに報告して全員が共有するとともに改善検討し運営に反映するようにしています。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	利用者のホームでの生活の様子は「はなぞの通信」で毎月家族の方にお知らせするほか、一人ひとりの健康や生活状況を「暮らしの様子」で個別に作成し、毎月ご家族に報告しています。また身の回り品の購入費など個別に要した金銭の管理経過についても毎月報告しています。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご家族からの苦情や介護上の提案などは、迅速に報告検討し運営に反映するようにしています。またホームに対する意見等、直接言いにくい場合に対応するため、意見箱を設置しております。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月定期的かつ必要な都度スタッフ会議を開催し、ケアや運営改善の意見や提案を話し合い、スタッフ全員が常に共通した認識のもと業務にあたることと、どんな意見や提案も自由に発言できるようすすめて運営に対する意見を積極的に引き出す機会を設けています。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	勤務ローテーションを基本に、状況の変化に即応できるよう余裕を持った職員数の確保、勤務調整の話し合いに努めています。	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動等によって利用者が不安を感じることはないよう、出来る限り馴染みの職員を代えないよう配慮しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での会議等の際の研修や、経験の浅い職員へは実務上で技術習得指導を計画的に進めているほか、行政や関係機関が開催する研修会には積極的に参加するようにしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や親睦行事に他のグループホームからも参加していただき、情報交換や交流を行っているほか、地域の福祉事業者と協力してのサポーター活動、市内ケア会議を通じての交流や相互訪問などを通じて、自施設のサービスの質向上に取り組んでいます。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム長は、職員のストレスに注意し、悩みや不満を聞くことや、職員相互の親睦を図るなど、意欲を持って業務にあたることの出来る環境づくりに努めています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ホーム長は、職員個々の努力や実績を公平に見た上で評価、激励するなど、職員が意欲を引き出すことが出来るよう努めています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者や職員の信頼関係の構築と家庭と変わらない暮らしを最優先に取り組んでおり、家族同様の接し方と常に話題をもって話しかけるようにして、何でも話し合える関係を作ることによって本人の考えや要望を聴くことができるよう努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から利用相談があったときは、利用の有無にかかわらず、実際のホームでの暮らしぶりを見学していただくなど、ホーム利用の実際を詳しく説明し質問に答えるようにしている。また家族の面会や訪問を受けた際は、ホームでの生活ぶりを伝えるだけでなく、要望や相談ごとを親身になって対応するようにして不安を生じさせないよう努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用を含む利用経過はないが、本人家族が他サービスの利用要望があるときは、その利用も含めた適切な支援方法を見極めて対応するようにしたい。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの暮らしぶりを十分に家族に聞くなど、ホーム入所後の生活や環境が変わることによって不安にならないよう、また本人とのコミュニケーションを十分に図りながら暮らしに慣れていただくよう工夫するようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ家庭的な環境で過ごしていただくことを重点において、調理や掃除など一緒に行うなど、本人が役割の一部を担うことで充実感が得られるよう努めています。また職員は利用者と一緒に過ごし、話し相手になることや声掛けをして信頼関係を高める努力をしています。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に本人・ご家族の立場に立って、信頼安心していただけるよう、いつでも相談要望に応じる体制など、ご家族との連携を密にして本人を支え介護を進めるよう努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の生活や家族との関係を十分に把握したうえで、いつも家族を身近に感じることが出来るよう話題を持ちかけたり、家族との距離が遠くならないよう、また良い家族関係が維持できるよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や友人などの訪問を受けた際は、自由に面会して交流が出来るよう支援する他、家族と一緒に帰宅や外出などで馴染みの場所や友人との関係が途切れないよう努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホームの生活で孤立する事のないよう、日中は全員が同じ場所で過ごせる機会をもち、利用者同士が家族的に関わり合い、支え合えるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	今のところ該当するケースがない。	○	以前入居されていたが、すでに契約のない方のご家族が、他の入居者や職員と馴染みになって現在もホームを訪れてくれている。関係を継続する必要性の有無にかかわらず、付き合いを大切にしていきたいと思います。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	本人の求める希望、意向をしっかり聞くことに努め、日常生活で生きがいや満足を与えることの出来る対応方法を職員で話し合い、できるだけ添えるよう努力しています。		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	本人からの把握が困難な場合でも、家族や友人の面会時などに把握することに努め、介護サービスで重要なことは、本人の経歴、生活経過を含め職員が共有するようにしています。		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	暮らしの様子、その日の行動・言動などを個々に記録し、一人ひとりの心身状態を把握することと職員間での申し送りを確実に行うことに努め、また定期的にスタッフ会議で介護方針を話し合い、職員全員が総合的に把握するよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護支援専門員の見地から作成された内容を、家族、職員全員に提案してそれぞれの意見やアイデアを反映した介護計画に努めています。		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画は定期的に見直しを行うとともに、状況に変化が生じ必要のある場合は本人、家族とも話し合い職員の意見を聞きながら、計画期間にかかわらず現状に即した見直しを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況や変化を「生活記録」として個別に記録しており、排泄や入浴、会話の様子などを計画見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診や理美容、買物など家族同行が困難な時は、状況に応じて職員が同行するなど柔軟に対応支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市内の小中学校が行う高齢者福祉体験実習の研修先として積極的に協力受入しています。また恒例的に訪問いただいている「そば打ち体験」や寿司職人のボランティアなど、利用者の期待も大きく、継続的に協力いただきながら受入支援しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に行っていません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ地域包括支援センターと協働した取り組みは行っていません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、本人および家族の要望を取り入れるなど、かかりつけの病院で受診できるよう支援しています。受診時には医師と事業所の連携を深めるため職員が同行して適切な指示、指導を受けて日常の健康管理に実践しています。なお看護師経験のある職員に利用者の健康状態を注視させ、早期に医療手当ができるよう支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医との連携には至っておりません。現在は協力医療機関やかかりつけの医師に相談の上、助言や治療を受けています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師経験のある職員が在籍していますが、専任の看護職員は確保していません。しかし利用者の日常の健康管理では看護知識のある職員が他の職員に指導助言するなど、適宜経験と知識を発揮し、利用者の健康管理を支援するようにしています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は職員が同行し経過症状の医師への説明や相談など、本人や家族に代わる役割を務めできるだけ不安を少なくするよう努めています。また入院期間中は馴染みの職員が訪院し、本人が安心できるよう接することや、病院との情報交換の結果を家族に伝えるなどの支援をしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかる事態に至る可能性がある場合は前もって家族、医療機関と相談の上、対応していくようにしています。また症状の度合いや変化、医師の指示や判断を適宜家族に伝えて対応方針を相談し、その内容は職員で共有するようにしています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師の所見や家族の意向をもとに、職員全員で本人への接し方や本人の満足や安心を高めるための対応および状況の変化への対応方針を話し合い、緊急時に対処できるよう職員で検討準備をおこなうようにしています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族を含む関係者間で充分話し合い、本人が愛用する家具や身の回り品を持ち込んでいただくなど環境面での安心感に配慮するほか、孤立や不安になることのないよう早期に生活に慣れていただく対応を家族や職員で話し合い、ダメージを防ぐように努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親密に言葉をかける場面はあっても、プライバシーの保護には十分に気を配り、利用者の尊厳を損ねることのないよう対応しています。また利用者個々の記録等の個人情報が外部に漏れることのないよう職員には管理、取り扱いを徹底し保管場所を決めて管理しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は常に話しかけるようにして、本人の思いや考えていることを引き出し把握することに努め、体力や判断力に合わせて、なるべく自分で行動することやこなすことで、自信を持って暮らしが送れるよう支援に努めています。また自らの意思表示が困難な入居者については、表情を見たり満足度に注視し、職員は利用者の立場にたって考えるよう努めています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者に声掛けをして求めているものや希望することを把握するように心がけ、職員が交代することがあっても申し送りをするなど、可能な限り利用者への対応を優先するようにしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着衣や履物は出来るだけ本人の希望に添うよう、また外出する時や季節に相応しい物で快適感や満足感をえられるよう気を配っています。整髪、調髪は定期的に利用者ご家族の美容師にボランティアで来ていただいているほか、本人が希望する理美容店に行けるよう支援しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好を把握し、偏らずできるだけ本人の希望も取り入れた献立のローテーションに配慮しています。また配膳の準備や後片付けなど出来るだけ手伝っていただくようにしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在の入居者の方で喫煙、常習的に飲酒をされる方はおりません。以外のおやつや飲み物は個人の嗜好に出来るだけ添うように努めています。また大きな親睦行事のときやお祝いの時には、お酒を楽しんでもらえるよう支援しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄サイクルを把握して、こまめにトイレ誘導しています。失禁時やさしく声掛けし話題を変えるなど羞恥心や不安の解消に努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は週3回とし、入浴日や順番は職員で予定表を作成していますが、状況に応じて対応するようにしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	必要以上の訪室は避けることと、室温や採光などこまめに巡回観察し、安眠できるよう支援している。また日中、必要以上に午睡しないよう利用者が喜んで関心をもってもらうためのゲームや散歩などのほか、興味のある話題の話し相手や声掛けに努め、夜熟睡できるよう努めています。また熟睡できなかった入居者は昼寝をさせるなど、状況と本人の希望で個別		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の関心や能力状況に合わせて、台所の仕事や花壇、野菜畑の世話など役割をもっといただき気晴らしや張り合いが持てるよう対応しています。また読書や歌うことなど個々の楽しみを支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な人にはお金を持たせるようにしています。外出で買物を楽しむときは職員が同行して、自分の判断で買うことや自分で支払うことの支援をしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	市内の観光スポットへの車での外出、花壇作り、野菜の収穫、町内会の親睦行事や一斉大掃除の参加など積極的に行っています。また天気の良い日は要望にあわせて散歩や買物など戸外に出て閉じこもらない生活をするよう支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームの年間行事計画の中で、花や観光施設、祭り見物など車での外出を行うようになっています。計画に当たっては個々の体力や健康などで無理のないよう職員で慎重に検討し本人の希望も出来るだけ取り入れて行き先の決定をするよう努めています。またそのときには家族の方も一緒に過ごしていただくよう呼びかけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援	ホームの電話をいつでも利用してもらえるようにしています。手紙も自由にやり取りができるようにしてあり、来たときには返信するよう話すが、本人から発信することはほとんどありません。		
	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
64	○家族や馴染みの人の訪問支援	午後9時までは、いつでも訪問していただけるようにしています。職員は訪問いただく家族の方などに親しみをもって馴染みになることで、気軽に要望や話ができるよう心がけています。また居室で家族と共に過ごすときなど、むやみに部屋に行かないよう心掛けています。		
	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践	管理者や介護支援専門員が研修等で理解を深め、全職員に徹底しています。		
	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる			
66	○鍵をかけないケアの実践	安全確保のためディルールの職員が少なくなるときは日中も一時的に施錠することがありますが、現在は施錠しておりません。夜間は保安上、施錠しております。		
	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
67	○利用者の安全確認	絶えず利用者の居場所を確認し、自室で過ごすときやトイレなどの際は、様子把握に特に注意し安全確認を行っています。		
	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している			
68	○注意の必要な物品の保管・管理	ハサミなどの刃物や薬は職員が管理しているが、他の物品管理は個々の状況に応じて管理方法を決めて危険防止に努めています。		
	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている			
69	○事故防止のための取り組み	定期的を実施するスタッフ会議等で、見守り、介助など個々の事故防止について話し合いを行い、実践しています。また火災等を防止することと緊急時に対処するための消防計画を制定し、日常の火気の取り扱いや火元責任者を定めるなど職員に周知し、事故防止に努めております。		
	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急を要する事態の連絡網や初期対応は全職員に周知していますが、実践に備えた訓練はまだ実施しておりません。	○	今回制定した「消防計画」にもとづく訓練実施に付帯して緊急時の応急手当など指導を受けながら取り組んでいきたいと思います。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防法の改正により次年度から防災体制を強化することが必要となることに伴って、消防計画を制定いたしました。またその中で規程される訓練実施方法にもとづき、消防署の指導をいただきながら訓練実施も開始しました。今後、部分訓練、総合訓練と引き続き実施していく予定となっています。また直近時の運営推進会議でも緊急時の近隣住民の方の協力を		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	介護計画を家族に示す際に説明している他、心配されることは面会がある都度、家族に報告し、対応策を話し合うようにしています。また利用者の日々の状況を毎月「暮らしの様子」に記載して送付しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的なバイタル測定のほか、変化が見受けられる時は測定し、体調管理に気をつけています。また体調の変化や異常が見受けられるときは速やかに管理者に報告の上、職員が情報共有し早期に医師の診察をうけるなど早期に対応するよう努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の受診の際は職員が同行し投薬の目的や効果、作用を確認し、他の職員にも周知するようにしています。また薬と一緒に交付される説明書を利用者個々にファイルしており職員が確認できるようにしています。服薬は必ず職員が直接的あるいは補助的に介助し、容器は必ず回収しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防や解消のため、水分の摂取や食材の選定に配慮し、一日1回はからだを動かす機会を設けるようにしています。また下剤を使用する場合もあります。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず介助して口腔ケアを行い、就寝前には入れ歯ははずしてもらい水に浸しています。更に週2回は洗浄剤を使用しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表を用いて把握しています。カロリー計算はしていませんが、毎月体重測定を行いその推移を参考にコンディションチェックを行っています。またそれぞれの好みを出来るだけ取り入れたメニューとなるよう努めています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内清掃やトイレの滅菌清掃を徹底するようにし、ホームに立ち入る前の靴底消毒、手洗い、うがいの徹底など予防に努めています。インフルエンザの予防接種は毎年行っています。また感染症に関する保健所等の研修会に出席し資料を感染症マニュアルとして全職員で活用できるようにしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具の清掃、整頓を念入りに行うようになっています。食材はスーパーが近いこともあって、毎日買出して鮮度の良いものを調達し、食中毒の予防に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム玄関前や建物周辺の敷地は広めに確保し花壇を設けてあり、手すり、スロープもありバリアフリーとなっています。玄関周辺には花ボックスやベンチを置いて気軽に出入りできるよう工夫しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイルームには利用者全員が座れるようにソファを配置して、全員で談笑したりテレビを見たり居心地よく過ごせるようにしています。また室内には季節に応じた飾り付けを施し、季節を感じてもらえるよう工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで利用者同士が談笑したり、テレビを見る利用者のために椅子を移動するなど、それぞれが思い思いに過ごせるよう、職員が目配り工夫しています。また自室にテレビを置くことや出入りも自由にできるようにしているが、日中はほとんど共用空間で過ごすことが多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れた家具類や愛着を持った人形や花などを配置するようにして、居心地よく過ごせるよう工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、湿度、室温調節はこまめに行い、空気のとどみや乾燥で体調を崩すことのないよう特に注意しています。エアコンは設置しておりません。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや個室は利用者の歩行状態にあわせ、車イスで利用するものと歩行が可能な利用者用の両方を設置しています。手すりの設置や床バリアフリーで出来るだけ自身で行動できるよう工夫しています。また二階への連絡は階段の他、エレベーターを設置しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	共同生活においてできる役割を担うことで張り合いや楽しみを感じていただけるよう、個々の能力や得意とすることにあわせて、食卓の準備や後片付け、調理の下ごしらえ、簡単な掃除、花壇の除草や灌水などをいただき、生活の充実感を得ていただくよう工夫しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの周りは、広い敷地に恵まれており、花壇や野菜畑をつくり、散歩や自由に休めるようベンチを置いて利用者を楽しんでいただいております。また玄関前広場を利用して町内会主催の住民親睦交流会を行っていただいたり、スタッフの手作りで縁日風の「はなぞのまつり」を開催し、入居者も一緒に参加して近隣住民との交流を楽しんでいただいております。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームが住宅地域の中にあり、近くには小学校もある環境的に恵まれた立地となっており、地域住民や子供たちとの交流に取り組み、利用者の日常生活がより家庭らしくなるよう地域行事への積極的参加を図っていきたくと考えています。(町内会行事(一斉大掃除など)の参加、紋別観光盆踊り大会に利用者と職員で参加、氷灯りの街もんべつのイルミネーション点灯に参加など。)